

2022年も残りわずか。事務局、学科等の責任者にこの1年を振り返ってもらいました。

コロナ落ち着き「動」へ 竹屋 元裕学長

今年の漢字は『戦』だそうだが、私の今年の漢字は『動』。今年はCOVID-19が少し落ち着き、対面授業が動き出した。オンサイトの「オープンキャンパス」が動いた。「からだのふしぎ探検」が今年から動き出した。「杏祭」が3年ぶりに動いた。4月に発足した「健康・スポーツ教育研究センター」も大きく動き始めた。きっと来年は、大学全体が大きくなうねりとなって動き出すだろう。

南部 雅美 医学検査学科長

キャンパスに活気戻る

今年は新型コロナウイルス感染症のパンデミック宣言から3年目を迎え、教育面においては教員、学生共に遠隔授業にずいぶん馴染んできたように思います。終息の兆しは未だみえないまでも、オープンスペース等の利用において規制が緩和され、放課後に自学をする学生も増えて、コロナ以前の活気あるオープンスペースの光景に戻りつつあります。



3年ぶりの開催となった杏祭のステージ

保健師と看護師養成を分離

多久島 寛孝 看護学科長代行

看護学科では、令和4年度入学生から第5次指定規則改定に伴う新カリキュラムが適用となりました。同時に保健師・看護師統合カリキュラムを廃し、看護師養成のみの初めての入学生となりました。今後、保健師養成は、令和7年度から1年制の専攻科を設置し行うこととなります。新たな時代の始まりとなる年となったといえます。

PT定員増 新たに5人の教員

田中 聡 リハビリテーション学科長

PT専攻では、入学定員増後、最初の学生達が入学し、また、優秀な先生方5名も新たに入職されました。OT専攻は、新カリキュラムへの対応や地域創成事業への準備など、色々な意味で変化が求められる1年でした。ST専攻は、志願者数の落ち込みにより、様々な対策を提案し、それを具体化することに力を入れた1年でした。

河瀬 晴夫事務局長

事務組織の再編とともに今年度が始動しました。コロナ禍にあっても大学の活動が充実するよう、対面での授業や各種行事（3年ぶりの杏祭等）の実施に向けて事務局一丸となって支援しました。また、安高理事長特別補佐や古閑特命副学長の力を借りて、教職員の意見を吸い上げながら、次年度からの中期計画の策定を進めました。

よりよい実践目指し 3年ぶり対面開催

看護学科 荒尾 博美教授

11月26日（土）、日本看護研究学会第27回九州・沖縄地方会学術集会を本学3号館で開催いたしました。2020年、2021年の2年間は、オンライン開催でしたので、3年ぶりの対面開催になりました。

学会テーマを、「よりよい看護実践を目指す科学的探究」とし、内容は、スペシャルセミナー、シンポジウム、一般演題発表でした。スペシャルセミナーでは、聞き書き作家の小田豊二先生に、「聞き書き人のまなざし」についてご講演いただきました。小田先生の話に引き込まれた1時間でした。シンポジウムでは、「学ぶ」「教える」「創ってみる」の側面から、本学の脳卒中リハビリテーション看護認定看護師課程で学ばれ、現在福岡脳神経外科病院看護部長の杉本智波先生、九州看護福祉大学老年看護分野で学士・修士教育をされている山本恵子先生、そして本学教授で地域で看護活動をされる竹熊千晶先生、3名のシンポジストにそれぞれの「よりよい看護実践を目指す」活動や経験、考えをお話いただき、とても充実した内容となりました。一般演題発表では、当日現地参加できなかった発表者はZoomを利用して、現地参加者とディスカッションしていただきました。

本学看護学科の先生たちを中心に企画運営から携わっていただき、学術集会を無事に終えることができ、今はとても安堵しています。そして何より、多くの方々のご支援があったからこそ、開催することができたと強く感じています。ご協力ありがとうございました。



写真上から小田豊二先生、山本恵子先生、杉本智波先生

報告

日本看護研究学会九州・沖縄地方学術集会

マイ授業

「くらしの中の看護Ⅰ・Ⅱ」

看護学科 村瀬 美香講師（左）、松本 佳代講師



「くらしの中の看護Ⅰ・Ⅱ」は、地域でくらすすべての人々の健康を支えることを目的として、一人ひとりの生き方や環境の多様性、環境との相互作用を考え、すべての人々がその人らしく健やかに地域でくらし続けるための地域・在宅看護の役割について学ぶ科目として令和4年度より新設されました。

「くらしの中の看護Ⅰ」（村瀬担当）は、大学生活を始めたばかりの1年生4月より始まります。授業の内容として、自分自身の生活や地域環境も含めたくらしに焦点を当て、大学生活開始後の自分自身の生活を記録し、現状の分析を行い、新たな大学生活での課題を見つけ、改善案を作成し実行していきます。「くらしの中の看護Ⅱ」（松本担当）は1年後期の科目ですが、「くらしの中の看護Ⅰ」での学習を基に、身近にいる大切な人の健康・生活・環境を関連付けながら観察し、大切な人の健康を守るための解決策を考え、生活を改善するための行動や環境づくりを具体的に提案します。

「くらしの中の看護Ⅰ・Ⅱ」の中で考え

地域・在宅看護の役割学ぶ

た内容を他の学生に伝え合い、そのプロセスにおいて、一人ひとりの生き方や環境の多様性、環境との相互作用を考え、人々のくらしについて考えを深めていきます。大学生となり、自分の行動には責任が伴うことを自覚し、自らを律しつつ、設定した目標の実現に向けて積極的に取り組むことや命の尊さを理解するとともに、自他の人格を尊重すること、人を思いやること等を身につける科目になります。



「くらしの中の看護Ⅱ」でディスカッションをする学生たち

12月の呪い

橋口 璃央 (リハビリテーション学科言語聴覚学専攻1年)

12月に誕生日を迎える私にとって、冬は一番好きな季節だ。誕生日やクリスマス、お正月など楽しみなイベントもあるから心がウキウキしてくる。しかし、少し困ったこともある。なぜか誕生日が近づくと怪我をすることが多いのだ。私はこれを「12月の呪い」と呼んでいる。

この発端は小学2年生の誕生日。誕生日ということもあり一日中テンションは高めで、気も緩みっぱなしだった。そのためいつもなら絶対落ちないような低めの鉄棒から派手に落ち、鎖骨を骨折した。そこから「12月の呪い」は始まった。

体育の時間中に突き指や打撲を繰り返すようになり、高校2年、3年生の時には、まさに誕生日当日に2年連続して廊下で派手に転んだ。鎖骨骨折以外はいずれのケースも軽症だが、けがの集中もここまでくると、もはや恐怖である。

大学生となり親元を離れて迎えた初めての冬。私としては心機一転、環境を変えたつもりなのだが、呪いの方は継続しているみたい。つい最近、右手にやけどをしてしまったのだ。ウキウキ感と少しばかりの恐怖感。やっぱり12月は私にとって特別な月だ。

◆アリーナジムの学生開放始まる

アリーナジムが5日(月)から学生にも開放されました。講習会が実施されました。講習会には9人の学生が参加。荒木理恵講師と健康・スポーツ教育研究センターの中村祐貴さんが、ランニングマシンをはじめとした各種機器の使い方を説明しました。ジムの利用時間は、月～金 16:30～17:30(学生のみ)、17:30～18:30(教職員のみ)、18:30～20:30(学生・教職員)。学生向けの説明会は今後も随時開かれます。問い合わせは、健康・スポーツ教育研究センター事務・中村さん。(安部悠介)



荒木講師から機器の使い方を教わる学生

◆事故防止へ交通安全講和 警察官による交通安全講話が11月24日(木)と12月14日(水)、50周年記念館で開かれました。学生の交通安全への意識を高め、事故を未然に防止するため実施。それぞれ約100人の学生が参加しました。熊本北合志警察署交通第一課企画係の坂本正幸係長と荒牧めぐみ巡査が、県内の交通事故死亡者数の推移や事故の形態などを事例を挙げながら説明。高齢者の死亡者数が多いことなどを紹介しました。最後に荒牧巡査が学生に向けて「横断歩道では歩行者優先。シートベルトを着用し、スピードを抑えて走行してほしい」と呼びかけました。(安部悠介)

私のお薦め記事

(このコーナーはDive! LSP 1年生が担当しました)

医療費審査、地域差縮小へ

厚労省、来年9月にシステム統一／無駄な支払いを抑制

(『切り抜き速報 医療と安全管理総集版』2021年2号、p.89)

概要

厚生労働省は医療機関による診療報酬の請求内容が適切かどうか審査するシステムを2021年9月から全国で統一。現行システムは都道府県ごとに独立しているため、地域によって審査基準がばらつき、同じ医療内容でも患者の負担額が変わることがある。政府が進めるデジタル化の一環として、医療の無駄や患者の不利益といった問題の改善に取り組む。

(医学検査学科・野田萌々奈)

コメント

地域ごとで異なっていた診断基準が統一されることで、平等性が高まる。その一方で、今まで不適切な請求が認められ他の地域よりも多くの利益があった地域の人にとってこのシステムを受け入れるのは難しいだろう。納得できず反対する人の意見も聞き逃さず取り入れることも必要だと感じた。また、平等と公平の違いや地域による多様性を尊重する考え方もあってよいと思った。(リハビリテーション学科生活機能療法学専攻・吉田ひなた)

◆冬の学内一斉クリーンデー 恒例行事となりつつある冬の一斉クリーンデーを開催中です。年末年始の大掃除を兼ねて、すっきりキレイに新年を迎えましょう。年末に間に合わなかったところは、年明けにお願いします。各学科・各課単位での実施をよろしくお願

します。実施期間は、12月21日（水）～令和5年1月16日（月）。重点箇所は、個人の机まわりや、普段使用している場所の整理整頓。また、これまでに職場巡視で指摘を受けた箇所の改善です。

（衛生委員会）

週間行事予定（12月24日～令和5年1月13日）	
12 / 27（火）	仕事納め式
1 / 5（木）	仕事始め式
1 / 7（土）	認定看護師教育課程・特定行為研修課程 入試

※次号(179号)は1月13日に配信します。